

事業所理念		発達のゆっくりなこどもの興味や特性、発達段階に寄り添いながら、身辺自立や基本的な体の使い方、人との関わり方などを、楽しく学んで身に付けられるように支援します。こどもの気持ちを受け止め「困ったら相談できる」「困ったら助けてくれる」存在となり、信頼関係を築き、安心して過ごせる環境を作ります。	
支援方針		◎できることをふやそう 食事・排泄・着脱・清潔・身辺の自立を高める ◎ゆたかなあそび 見る・聞く・身体を動かす・大人と共に豊かな経験 ◎からだづくり たくさん遊ぶ・しっかり食べる・ゆっくり静養	
療育時間		10時00分から 15時00分まで	送迎実施の有無 あり (送迎バス運行/市内数箇所バス停) ※肢体不自由児はなし
支援内容			
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、生活習慣や生活リズムの形成、基本的な生活スキルの獲得の支援。 食事、排泄、睡眠、着脱、身の回りを清潔にすること等、基本的な生活習慣を身に付けられるようにスモールステップで支援を行う。 食事は園で手作りの給食を提供。口腔内機能・感覚等に配慮しながら可能な限り個別に対応。 昼寝(睡眠)の時間、眠れない時は遊んで過ごす(にじいろタイム)。遊びの途中で水分補給と身体を休める休憩タイムを行う。	
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、さまざまな体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援。 滑り台・トランポリン・一本橋等、複数の運動遊びを通して、体の動かし方を学び運動の楽しさを感じると共に、運動能力の向上に繋げる。“操作性”“手指機能”等の成長を支援。 水・砂・泥んこ・粘土・絵の具・ボディペイント等の感触遊びを通して、さまざまな素材の感触やにおい、音などを感じ五感を育む。想像力や思考力を養う。	
	認知・行動	認知の特性についての理解と対応、対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得、行動障害への予防及び対応を支援。 大小、数、重さ、空間、時間、文字等の概念の形成を図り、認知や行動に活用できるよう支援を行う(スケジュール説明時に日付・人数を確認等)。 記憶、弁別力、構成力を養う。 “着席”“よく見る”“少し苦手なことも頑張ってみる”等、課題に向く姿勢や力を養う。 状況の変化への対応(適応の難しさ等への支援)。	
	言語・コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力の向上、言語の受容と表出、言語の形成と活用、状況に応じたコミュニケーションの支援。 “要求”“報告”“聴く”“模倣”“観察する”など、自分も周囲の人も大切にすることを学ぶ。 言葉だけでなく指差しや身振り、ジェスチャーやサイン、絵カード等のコミュニケーション手段を選択・活用し、こどもに合わせた視覚的な支援を行う。	
	人間関係・社会性	アタッチメント(愛着)の形成と安定、遊びを通じた社会性の発達、自己の理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加の支援。 環境に対する安心感、人に対する信頼感、自分に対する自己肯定感を育む。“模倣”“ごっこ遊び”“協同遊び(ルール)”などを通して社会性の発達を支援する。 “待つ”“譲る”など気持ちをコントロールする力を育む。 思いが通らない等で気持ちが昂った状態の時は、ペースに合わせて関わり、気持ちの発散や切り替えの方法を考える。	
家族支援	子育てに関する困りごとに対する相談援助。こどもの成長の共感・確認。 家族に対する支援場面を通じた学びの機会の提供。 ・家庭訪問・個人面談・見学・クラス懇談会・発達検査・遊戯療法等。	移行支援	同年代の子どもをはじめとした地域における仲間づくり。 ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備。 ・交流保育・地域交流・移行先(保育園/幼稚園/学校)との情報の共有等。
地域支援・地域連携	こどもに関わる地域の関係者/関係機関との連携(保健・医療・福祉・教育)。 ・相談支援事業所との生活支援や発達支援における連携	職員の質の向上	・市内保育園・児童デイサービスセンターとの相互実習 ・市内保育園による講演会・研修会への派遣 ・外部講演会・研修会への派遣
主な行事等	・入園式・プール遊び・夏まつり・運動会・親子バス遠足・クリスマス会・豆まき・バイキング給食・卒園式・トランポリン療育(年5回) ・音楽療育(年4回)・音楽コンサート(年1回)・誕生会(毎月)・交流保育(年6回)・地域交流(不定期)・食育(スタンプ遊びなど)・試食会 ・健康診断(毎月)・避難訓練(毎月)・歯科衛生指導(年2回)・防災訓練・引き取り訓練・家庭訪問・個人面談・見学・クラス懇談会・草加かがやき巡回指導 ・歯科検診(年2回)・菖蒲の節句・笹の節句・菊の節句・七草の節句・桃の節句		